おかげさまで13年ほを迎えることができました。皆様のご愛顧に感謝いたします。

エコバウリフォーム・ニュース

12月号 エコロジー×バウビオロギー（建築と生態学を融合させた人間中心の建築設計です）

英国ガーデンシティー建築視察／第3回チャールズ皇太子のアーバンビレッジ運動（最終回）

積石造のファミリーハウス（2012・パウンドベリー）

赤煉瓦のアタッチドハウス（2012・パウンドベリー）

伝統的なジョージアン様式（2012・パウンドベリー）

ガーデンシティーの原点であるレッチワース↑
↓ハムステッド・ガーデンサバーブ（2011取材）

英国のアーバンビレッジ運動

プリンスチャールズが推進した英国のパウンドベリー開発は、着工から20余年を経て間もなく完成します。これは1900年のエベネッザー・ハワードによる「ガーデンシティ」の思想を受け継いだものですが英国の住宅地は長期による「住宅地管理経営」が伴うことで成熟を遂げ、資産価値も上がり続けています。しかし日本の不動産業者からみると長期間の「住宅地管理経営」は売り逃げが出来ず「手離れのわるい」商売と考えられてきました。日本の大正期にハワードのガーデンシティが模され「資産形成を実現する」という大義名分で阪急宝塚・六麓荘、東急田園調布・日吉、東武常盤台、小田急成城学園など「田園都市」の名で開発されながら、情緒的な街づくりに終わり「手離れ良い」事業は販売終了をもって収束しその後の住宅地管理経営は行われませんでした。日本の田園都市の理解は、商売上の郊外のベッドタウンのための宅地分譲で、開発後の住宅地経営の概念は極めて弱く、全国の都市は陳腐化し資産価値を失っています。英国のハワードによる100年前のガーデンシティーは現在のニューアーバニズムとして米国で普及し、再びアーバンビレッジとして英国に里帰りし、資産価値を失わない都市開発の手法として世界中で高い評価を得ています。

地方都市の住宅地政策転換

80年代の英国は財政危機に直面しビートルズで有名な地方都市リバプールなどを産業都市から、歴史文化都市に変える政策に転換しました。サッチャー政権は国家財政に依存せず国民の主体的で自信を取り戻す事業を積極的に支援しました。建築においては、かつての大英帝国を彷彿させる空間の形成や美しいデザインが復活しました。歴史文化を背景に人々の愛国心から醸し出された成熟した都市は、訪れる者に美しいと感じさせ感動すら与えます。英国と同じ80年代の日本は、国民最大の支出である住宅取得を経済政策とGDP拡大に利用しました。20余年でスクラップ&ビルドし建替える新築偏重の住宅政策を推進しました。

このフロー経済の結果、本来ストックとなるはずの住宅の資産価値は下がり続け住宅地も陳腐化しました。現在の人口減少や賃金水準の低下、経済の低迷はデフレではなくリセッションと言わざるを得ない状況です。今こそ国民の価値観は「大転換」せざるを得ないと思います。その意識や価値観の大転換は、マイナス思考ではなく収入（フロー）が減っても資産（ストック・アセット）がジワジワと増え、国民が豊かになる方に振れることが社会を明るくします。政治も経済界もその大展開を後押しすれば、個人消費は活発化し、企業収益も改善に向かうものと思います。

英国取材：㈱アップル 大竹喜世彦

英国人に人気の高いハーフティンバー建築と煉瓦造（ポートサンライト、ソルティア）
いずれも資産価値を失わない100年前の住宅（2011取材）

【建築と生態学】を結ぶ【バウビオロギー建築】

日本には自然とかかわる【しつらえ】に親しみ自然共生する暮らしがありました。
『エコバウ・リフォーム』は自然素材を多用する私達の考えが詰まった
『エコロジーで健康』なコンセプトリフォーム。アップルで推進中です！

ていねいな暮らし×居心地よいパッシブな建築がやっぱり好き

ルネッサンス・リバイバル様式≪東京駅の保存復元が完成≫

かつての近代国家日本の威容を示す建造物は明治41年（1908年）着工、3大正3年（1914年）完成

新東京駅は2階建から元の3階建に再現された
丸の内・北南口共に大きな天井ドームが復元された

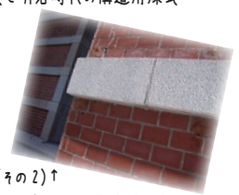
【日本の近代建築の象徴】

明治41年の着工から30年を経て完成した東京駅・赤煉瓦駅舎は、中央に皇室専用昇降口、3階建て全長335メートルの長大な建造物でした。鉄骨煉瓦造の建築は、当時ヨーロッパで復活したルネッサンス様式。設計は、近代建築を代表する辰野金吾。赤煉瓦に白の花崗岩という鮮やかな外観は、英国でリバイバルしたルネッサンス建築から生まれたクィーン・アン様式、ヴィクトリアン様式ですが、日本では「辰野式」と称され、明治～大正期の日本を代表する近代建築となりました。大正12年の関東大震災には耐え、昭和20年の空襲によって炎上赤煉瓦の屋根は全て焼失しました。戦後、東京駅は修復されましたが安全面から3階は解体され、現在まで2階建のままでした。

【東京駅丸の内駅舎完成】

5年の工期を経て今年復元が完成した新東京駅に使われた煉瓦は2種類。構造用煉瓦と化粧用煉瓦です。構造用煉瓦は日本煉瓦製造㈱のもので752万個。イギリス積みで、化粧用煉瓦は品川白煉瓦㈱の製造で85万個が小口積み。鉄骨は3100万トンで八幡田製作所、英国、米国の混合。出荷直前に被災した瓦は東北から苦難の末調達したものです。 取材：大竹喜世彦

発見（その1）↓ 新しい化粧煉瓦と明治時代の構造用煉瓦



発見（その2）↑
外壁の化粧煉瓦の目地は覆輪目地。真ん中が蒲鉾状に膨らむもの。
格段に手間がかかる明治の人々の「心意気」は現在にも伝承された

『名門プラザ・ホテルの存続』と『とっくに解体された丸ビル』#1

100年後

「プラザ合意」で有名なニューヨークの象徴プラザホテルは、設立から約100年を迎えた2004年、大部分をアパートメントに改装する計画が持ち上がる。これに対するホテルの愛好者、市民らの猛反発の結果、「今後100年間はニューヨークを訪れる人々を楽しませる」とされた。注目すべきは日本と違い「老朽による解体」「建替え」という議論は最初からなかったこと。驚きは、2002年に解体された東京駅前、旧丸ビルの設計がプラザホテルと同じフラー社のハーデンバーフという事実だ。築70年の丸ビルがとっくに解体され、築100年のプラザ・ホテルは「さらに100年活躍」となったわけである。（次回つづきます）取材：大竹喜世彦

㈱アップル、社員が参加した講習会・イベント

11/ 16（木）【ジャパン・ホームショー2012、インテリアデザイン展】東京BIGサイト 主催：社・日本能率協会
11/ 17（金）【竹・茅・石・木に民家を学ぶ】東京 主催：日本民家再生協会
11/ 18（土） 茅葺民家の視察・農業体験【大木邸】那須烏山 主催：日本民家再生協会
11/ 23-25【バウビオロギー建築＋環境医学会議 in 日本】軽井沢 主催：独エコバウ研究所イノボイエルン（IBN）
11/22 住宅産業予測2013東京国際フォーラム 主催：新建ハウジング

エコバウBlog ホームページで毎日掲載中です。

次回は【米国建築視察】レポートをお伝えします

★エコ建築&環境の取り組みは。。。リフォームアップル www.reform-apple.com イベント

Reform Apple
リフォームアップル自治医大店
0120-393-897 TEL0285-44-8208

自治医大で唯一の住宅リモデリング専門会社
ホームページで施工例がご覧になれます
www.reform-apple.com
㈱アップル リフォームアップル
下野市祇園 1-20-1

㈱アップルは建設業許可法人（般-第22168号）・建築設計事務所（知事第4088号）・住宅金融支援機構適合証明登録建築士事務所（第16090044号）・シックハウス診断士協会（一級）登録業者（第08006101号）・日本住宅保証検査機構登録事業者（A8101455号）です。